大分合同新聞
令和6年新年特別号
新春医療機関インタビューに
深野理事長が掲載されました

地域連携と人材確保に力入れる

中津胃腸病院 理事長
深野 昌宏氏

中津胃腸病院は、消化器外科・内科を中心に診療から手術、リハビリテーション、さらに緩和ケア、在宅医療（訪問診療・訪問看護）までを担い、地域医療に取り組んでいる。

昨年7月に藍澤哲也院長が就任。自身は理事長専任（名誉院長）となり、引き続き医療現場と医療法人社団の運営に携わる。「世代交代の時と思い、40代の藍澤院長に任せることにした。今後は実務に専念したい」と思いを語る。

2020年から続いた新型コロナウイルス禍は5類移行で院内の繁忙も一段落し、昨年後半は、「本来の消化器病に特化した病院の姿を取り戻した」と振り返る。救急を積極的に受け入れ、一昨年から導入している自前の救急車も病院間の搬送で活躍した。22年12月～23年11月の手術件数は273件で、その内、腹腔鏡手術は98件、痔核・痔ろうなど肛門手術は107件に上る。「大腸、肛門疾患診療は藍澤院長が担当。女性にも親しみが持てるようホームページも工夫している。〝中津胃腸病院の顔〟にしたい」と意気込む。

昨春、患者の入退院支援を行う部署を改称し、医療ソーシャルワーカーや看護師を配置した。入退院や診療などの相談に対応するなど、地域連携を進めている。「人あっての病院。機材が優れていても人に代わることはできない。医療の充実のために専門知識を身に付けた人材は欠かせない」と言い、専従職員が人材確保のために県内はもとより県外各地に出向いている。一方で「看護師の残業を減らし、職員には満足のいく給与を支払いたい」と院内の就業環境にも心を配る。

25年は開院45周年の節目を迎える。建物の改築や整備に加え、医療機器の新規導入、専任の人材の確保など課題は多いが「消化器病に特化した病院としてさらなる医療業務を強化するため、資材の投入は惜しまない」と話す。「少子高齢化の時代で、地域では開業医の廃業が相次いでいる。地域の医療の先行きは不安だが、病院として体力を備え、使命感で立ち向かっていく」と決意を新たにする。

「地域医療を私たちが支える」と決意

病院DATA

●診療科目
外科・消化器外科・内科・消化器内科・肛門外科
リハビリテーション科・疼痛緩和内科
麻酔科（深野昌宏・滝口哲）

●診療時間
平日／9:00～12:00、14:00～17:30
土曜／9:00～12:00

●休診日
土曜午後、日曜、祝日
※急患の方はこの限りではありません

医療法人社団
中津胃腸病院

中津市大字永添510番地
TEL0979-24-1632
https://n-icho.or.jp